

新技術を活用した新たな図書館サービスの可能性

株式会社カーリル 代表取締役・エンジニア 吉本龍司

カーリルとは

株式会社カーリルは、無料で利用できるウェブサービス「カーリル」の運営を軸として、さまざまな図書館に関わる技術開発に取り組んでいる。カーリルでは Web-OPAC により全国の図書館から提供される所蔵情報を、横断的に抽出し、整理・統合した上で、利便性の高いユーザーインターフェースにより利用者に提供することにより、新しい蔵書検索サービスを実現した。サービス開始時は、主に公共図書館の利用者を対象としたサービスであったが、現在では、大学図書館や専門図書館への対応も進んでいる。これらのサービスを実現したカーリルの開発体制について簡単に紹介する。

最近の取り組みから

カーリルの最近の取り組みから、情報技術を生かした「新たな図書館サービス」の可能性について論じる。カーリルがサービスを構築する際には、まず明確な API 仕様を定める。これにより、従来の図書館システムと疎結合（一方が他方を容易に取り替えられる状態）に連携することができるようになり、新しい図書館サービスの実現が飛躍的に容易になった。最近では、API を活用した図書館との協業事例が増えているため具体的な事例を紹介する。

- 館内 OPAC のリニューアル（小さな図書館のウェブサービス）
～あたりまえを変える～
- データ分析による人気図書の抽出
- 除籍支援システム
- 図書館業務向けの超高速横断検索
- 大量書誌の機械同定
- 誰でも使える高速な書誌情報提供 API 「openBD」

新しいサービスをつくる

情報技術を活用して、新しい図書館サービスを展開するためには、サービスのミッションを明確にした上で、その構成技術やデータの精度、サービスの安定性や、費用負担など様々な検討をする必要がある。それぞれの要素の間にトレードオフがあるため、その裁定にはアーキテクチャや設計ポリシーが重要となる。本講義では、「図書館業務向けの高速横断検索」を題材にして、カーリルがどのように設計・開発を行ったかを論じる。

- サービスを設計する
- 新しい API を設計する
- アーキテクチャを考える
- ユーザーインターフェースを考える
- インフラを作る
- 運用する

カーリルの目指すもの

カーリルでは、「図書館をもっと楽しく」をミッションとして様々なサービスの開発及び技術開発に取り組んできた。図書館における情報システムの重要性は高まる一方で、大規模化・高度化によりブラックボックス化が進行した。人員やコストが限られた中で、サービスを安定的・持続的に提供していくためには、技術のコモデティ化は当然目指すべき方向である。とくに今日の IT 業界においては、収益は技術ではなくサービスが生み出すようになっており、オープンソースの取り組みは、経済的に見ても理想主義ではなく現実的必要性から運用されていると言えるだろう。このような視点に立って、未来の図書館システムにおいてカーリルが目指す世界を論じる。